

(Farebee SH Controlled chemoprophylaxis trials in tuberculosis, a general review: Adv. Tuberc. Res. vol 17: pp28-106.)

2. 治療終了後の再発発見のための経過観察の実施間隔について

再発発見のための経過観察の実施間隔については、文献的考察や過去の研究をベースに適切な実施間隔を提示することは難しい。

現状の一例として、複十字病院では、治療終了後 2 年間、外来での定期的な経過観察を実施しており、治療終了後 12 ヶ月以内は 3 ヶ月毎、12-24 ヶ月は 6 ヶ月毎という方式をとっている。それ以降は本人が外来受診を希望した場合と他疾患通院症例のみ検査を行っている。2003 年から 2007 年に治療開始した症例で治癒した症例のうち 1083 例で治療終了後の定期外来における経過観察が行われ、24 例が再発を確認されている。うち 15 例は外来での定期の経過観察により発見(症状有りは 6 例、症状無しが 9 例)、9 例は本人の有症状による外来受診であった。

他の報告としては、病院での経過観察体制は不明であるが、再発の発見動機は、検診 18 例、有症状受診 17 例(文献 4)のように検診発見が多いとの報告もある。一方で、再発の発見動機は有症状受診 12 人、医療機関フォロー中に発見 4 人、管理健診 3 人、他疾患受療の際に発見 1 人(文献 6)と有症状受診が多いとの報告もある。こちらは、前回治療後から再発までの年数が長い症例が多い。

	研究 デザイン	対象	症例数	治療法	治療後追 跡期間	総再発 例数	再発時 期①	再発例 数①	再発率 ①	再発時 期②	再発例 数②	再発率 ②	再発時 期③	再発例 数③	再発率 ③	再発時 期④	再発例 数④	再発率 ④	再発時 期⑤	再発例 数⑤	再発率 ⑤
文献1	コホート	肺結核初 回治療	530	6ヶ月短期 化学療法	2年	9	1年以 内	9	1.7%												
文献2	コホート			6ヶ月短期 化学療法	5年		2年以 内		2%	5年以内 (2年以 内含む)		3%									
				6ヶ月短期 化学療法 (間欠療法)	5年		2年以 内		1%	5年以内 (2年以 内含む)		2%									
文献3	コホート		839			27	1年以 内	24	3.5/100 人年	1年以降	3	0.61/10 0人年									
文献4	後向き	肺結核再 発例(中断 例のぞく)	35	短期化学療 法	n/a		6ヶ月未 満	6		6-12ヶ 月未満	8		12-18ヶ 月未満	1		18-24ヶ 月未満	3		24ヶ月 以上	17	
文献5	後向き	再発例	43		n/a		3ヶ月以 内	10		6ヶ月以 内	9		12ヶ月 以内	7		24ヶ月 以内	8		25ヶ月 以上	9	
文献6	後向き	再発例	20		n/a		1年未 満	6		1年以上 2年未満	4		2年以上 3年未満	2		3年以上	8				
根拠2	コホート	薬剤耐性 例含む	1242 (1083)		5年	27 (24)	1年以 内	21	2.3/100 人年	1年以上 2年未満	1	0.2/100 人年	2年以上 3年未満	1	0.7/10 0人年	3年以上 5年未満	1	1.7/10 0人年			

	研究デザイン	対象	症例数	治療法	治療後追跡期間	総再発例数(培養陽性)	総塗沫陽性例/検査結果有	再発時期①	塗沫検査結果①(陽性/陰性/不明)	再発時期②	塗沫検査結果②(陽性/陰性/不明)	再発時期③	塗沫検査結果③(陽性/陰性/不明)	再発時期④	塗沫検査結果④(陽性/陰性/不明)
文献1	コホート	肺結核初回治療	530	6ヶ月短期化学療法	2年	9									
文献2	コホート			6ヶ月短期化学療法	5年										
				6ヶ月短期化学療法(間欠療法)	5年										
文献3	コホート		839			27	12/24	6ヶ月以内	9/7/2	6-12ヶ月	1/5/0	12-18ヶ月	0/0/0	18-24ヶ月	2/0/1
文献4	後向き	肺結核再発例(中断例のぞく)	35	短期化学療法	n/a										
文献5	後向き	再発例	43		n/a										
文献6	後向き	再発例	20		n/a										
根拠2	コホート	薬剤耐性例含む	1242(1083)		5年	24		1年以内	18/3/0	1年以上2年未満	0/1/0	2年以上3年未満	1/0/0	3年以上5年未満	1/0/0